

平成29年度 <小学校>
全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

授業アイデア例

「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして、国立教育政策研究所において作成したものです。

本調査で見られた課題は、調査の対象学年だけではなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって改善を図っていくことが大切です。

「授業アイデア例」が、日々の授業や研修会など様々な場面で活用され、児童生徒の学習状況の改善につながることを期待しています。



目次

授業アイデア例の見方	1
国語 「お礼の手紙を書こう」	～目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く～ 3
「協力をお願いするポスターを作ろう」	～目的や意図に応じ、必要な事柄を整理して書く～ 4
「興味のあることを調べて友達に伝えよう」	～目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話す～ 5
「物語を推薦しよう」	～叙述を基に推薦理由を明確にして、物語の魅力を伝える～ 7
算数 「きまりを言葉や式で表現しよう」	～見いだした数量の関係を一般化する～ 9
「よりわかりやすい表に作りかえよう」	～目的をもって情報を収集・整理し的確に特徴を捉える～ 11
「図に表すことで、100%や114%を捉えよう」	～量の大きさと割合の違いを明確にし、基準量・比較量・割合の関係を捉える～ 13



授業アイディア例 の見方

教科名、本授業アイディア例のタイプ、該当設問を示しています。

タイトルではどのような活動を行うのかを、サブタイトルではどのような力を身に付けたいのかを示しています。

調査結果から見られた課題についての解説や本授業アイディア例の作成意図、指導の狙い等を記述しています。

ポイント

について

本授業アイディア例において、特に注目・留意をしていただきたい指導上のポイントを記述しています。

国語
TYPE III
B1

「興味のあることを調べて友達に伝えよう」

目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話す～
目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題が見られました。そこで、本アイディア例では、この課題を解決するために、児童が興味・関心をもっている事柄について、調べたことをスピーチ形式で友達に伝えることについての指導事例を紹介します。なお、本アイディア例は、第5学年以上を対象としています。

授業アイディア例のタイトルとサブタイトル
歴史上の人物について心に残ったことを友達に伝えよう (全7時間)

(主な学習活動) (指導上の留意点)

学習過程	① スピーチのモデルを聞いて感想を話し合い、自分が興味をもった歴史上の人物についてスピーチを行うという学習内容を知る。	■ スピーチのモデルから児童が気付いたスピーチのよさを、「スピーチの心得」としてまとめる。
第一次	② 今回のスピーチの目的、相手、時間、場を知り、学習計画を立て、自分がスピーチに取り上げる歴史上の人物を決める。	■ スピーチを行うためには、「調べる」、「伝えたいことを決める」、「発表原稿やメモを作る」、「練習をする」などの活動が必要であることを確認する。
第二次	③ 自分が選んだ人物について、社会の教科書や資料集などで調べたことを基に自分の考えを明確にし、スピーチの構成と内容を考える。	■ 調べたことの中から、友達に伝えたいことを明確にし、スピーチの構成や内容を考えることができるようにする。
第三次	④ 自分の考えが伝わるように、③で考えた構成と内容を基にスピーチメモを作成する。	■ 児童の実態に応じて、発表原稿を作成してから、それを基にスピーチメモを作成するなど、指導を工夫する。
	⑤ メモを基にスピーチの練習を行い、友達と助言し合う。	■ スピーチの話の構成や内容、話し方など、自分が助言をもらいたい観点を明確にしておくことを確認する。
	⑥ 友達からの助言を基に、スピーチの構成や内容を見直し、必要に応じて練習を行う。	■ これまで学習でまとめてきた「スピーチの心得」を基に、自分の改善点に気付くことができるようにする。
	⑦ 歴史上の人物について心に残ったことを発表し合い、学習を振り返る。	■ 自分のスピーチを振り返り、次にスピーチを行うときに生かしたいことを確認する。

第一次①/7 スピーチのモデルを基に、気付いたことを「スピーチの心得」にまとめる

「スピーチの心得」

資料集の仕方	話の構成や内容	話し方
--------	---------	-----

歴史上の人物について心に残ったことを友達に伝えよう
スピーチのモデルを見て、気付いたことを「スピーチの心得」にまとめてみよう。

「スピーチの心得」

大事なこと、はつくり、はつきりと話しています。

相手の反応を意識して、話し方を工夫しています。

具体例を挙げながら分かりやすく伝えていきます。

いろいろなことに気付きましたね。では、気付いたことを「スピーチの心得」をまとめてみましょう。

スピーチを行う際、自分が伝えたいことを伝えるためにはどの「スピーチの心得」を使えばいいかを児童が判断することができるようにします。そのために、「スピーチの心得」をノートやカードなどにまとめ、児童が必要に応じて参考にすることができるようにしておくことが大切です。

課題の解決に向けた観点として、次の3つのタイプを設けています。

ケースに応じて

TYPE I

調査問題の解答類型(*)等から
つまずきの状況を把握し、
その解決を図る事例

小学校
国語

- P. 3 「お礼の手紙を書こう」
- P. 4 「協力をお願いするポスターを作ろう」

小学校
算数

- P. 9 「きまりを言葉や式で表現しよう」
- P.11 「よりわかりやすい表に作りかえよう」
- P.13 「図に表すことで、100%や114%を捉えよう」

※解答類型とは？

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものです。

正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況(どこでつまずいているのか)等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

課題の見られた問題の概要と結果

B ① スピーチの練習をする (「折り紙」の紹介)

B ①③ 正答率 **48.6%**

学習指導要領における領域・内容
 (第5学年及び第6学年) A イ
 (第5学年及び第6学年) B ウ

自分が選んだ人物について、心に残ったことが伝わるように、スピーチメモを作成する

スピーチメモの例

目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、話の要点を短い言葉で順序立てて記述するように指導することが大切です。

スピーチメモを作成し、そのメモを活用して話すことで、話の構成を意識しながら相手の反応を見て話すことができるというよさを実感できるように指導することが大切です。

スピーチの練習を行い、友達と助言し合う

スピーチメモを見ながら話す練習をする

練習の様子を互いに見合いながら助言をする

スピーチの例

動画を観ると、自分で思っているよりも早口で話していたと分かるね。

一番伝えたいところを、ゆっくり話したほうがかな。私もそれを意識してスピーチしてみよう。

友白のねばり強さやじっくり考えるところがすごいと思ったから、そこを一番伝えたい。

他に気を付けたいことはあるかな。

それなら、友白のねばり強さが分かることももう一つ付け足したらどうかな。そうしたら、もっと伝わると思うよ。

相手の反応を見て話すことももっと意識したいな。

話し言葉には、発せられた途端に消えていくという特質や、聞き手の反応やその場の状況の影響を強く受けながら理解されたり表現されたりするという特質があります。自分のスピーチの改善点を検討するために、話す様子を動画で撮影するなどして、児童が自分自身の話す様子を振り返ることができるようにすることが大切です。

発表会を行い、学習を振り返る

本授業アイデア例 活用のポイント!

● 本事例では、第6学年の社会科における歴史の学習との関連を図り、自分が興味・関心をもった歴史上の人物を取り上げました。スピーチの話題として、自分の趣味やクラブ活動などを取り上げるなど、児童の実態や他教科等における学習を踏まえ、児童が伝えたいと思うような内容を設定することが大切です。

● 高学年における「C 読むこと」の指導事項と関連を図り、自分にとって必要な情報について、図書資料を用いて調べる活動に重点を置いて指導することも考えられます。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 国語」P.52～P.63、「平成29年度 解説資料 小学校 国語」P.40～P.48

該当する設問の概要、正答率を示しています。

調査問題に関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

本授業アイデア例 活用のポイント!

本授業アイデア例を活用するに当たって、授業づくりの参考となるよう、他の学年・各教科等での指導に生かすことなど、参考となる情報や指導上の留意点等を記述しています。

参照▶

国立教育政策研究所で作成しているほかの資料の関連部分を示しています。

ピンポイントで

TYPE II

短時間で知識・技能を確認して定着を図る事例

小学校 国語

P. 3 「お礼の手紙を書こう」
 P. 4 「協力をお願いするポスターを作ろう」

小学校 算数

P.13 「図に表すことで、100%や114%を捉えよう」

プロセスの中で

TYPE III

数時間にわたる学習過程の中で、知識・技能の習得と活用を図る事例

小学校 国語

P. 5 「興味のあることを調べて友達に伝えよう」
 P. 7 「物語を推薦しよう」

小学校 算数

P. 9 「きまりを言葉や式で表現しよう」
 P.11 「よりわかりやすい表に作りかえよう」

「お礼の手紙を書こう」

～目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く～

手紙の構成を理解することに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、本問を活用し、様々な活動の際にお世話になった方への礼状を書く指導事例を紹介しします。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

A2 お礼の手紙を書く

A2二 正答率 **41.6%** 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B イ

授業アイデア例

社会科見学でお世話になった田村さんへお礼の手紙を書こう (全2時間)

他教科等において、施設の見学や体験学習を行った際に本単元を設定します。見学や体験が児童の課題発見及び解決を促すような学習となるようにし、児童自ら「お礼の手紙を書きたい」と思うように、相手に対する感謝の気持ちを高めておくことが大切です。

第1時 手紙の構成を確認し、歴史博物館ガイドの田村さんに送る手紙の内容を考える

■ 本問を活用し、手紙の構成と「本文」に書かれている内容を確認した上で、伝えたいことの中心を明確にし、相手にお礼の気持ちが伝わるように、「本文」に書く内容を考える。

手紙の構成

季節の言葉や、自己紹介などを書く

体験したこと 気付いたこと

ポイント

「本文」に書く内容としては、次のようなものが考えられます。

- 手紙を送る相手が話してくれたことの中で一番心に残ったこと
- 体験して気付いたこと
- 見学をして、新たに疑問に思ったこと
- 見学をして興味をもったことについて、本で調べたこと

別れの挨拶、相手を気遣う言葉などを書く

相手の名前を最終行の上の位置に書く

「本文」に書く内容

前文
夏空がまぶしい季節となりました。先日はおいそがしいところ、歴史博物館を案内していただき、ありがとうございました。

未文
暑い日が続きますが、お体に気をつけてお過ごしください。

後付け
七月四日
田村 一郎 様
山下 明

本文
私は、体験して気付いたことを「本文」に書くと思っているんだけど、みんなはどんなことを書くのかな。

私は、田村さんが「この時代は争いが少なかったんだよ」と教えてくれたのが一番心に残ったから、そのことを書こうと思っているよ。

縦書きの手紙の場合、相手の名前を最終行の上の位置に書くことで、相手への敬意を示すことにつながります。手紙の形式がもつ意味を理解しておくことが大切です。



体験して気付いたことや、心に残ったことなどを具体的に書くと、相手に感謝の気持ちがより伝わります。

第2時 感謝の気持ちが表れるようにお礼の手紙を書く

■ お礼の手紙を書き、友達と読み合っ構成や内容について助言し合う。

手紙の構成や内容を吟味したり、形式を整えたりすることが、相手に対する感謝の思いや敬意を表すことにつながるということを指導することが大切です。



本授業アイデア例 活用のポイント!

- 礼状を送った相手からの言葉を児童に伝えることで、相手を明確にして気持ちを伝えたり、返事をもらったりするという、書いた手紙で交流する楽しさを児童が実感できるようにすることが大切です。
- 手紙を書く学習活動を、国語科のみならず、国語科との関連を図りながら、各教科等に意図的、計画的に設定することが重要です。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 国語」P.26～P.29, 「平成29年度 解説資料 小学校 国語」P.18～P.21

「協力をお願いするポスターを作ろう」

～目的や意図に応じ、必要な事柄を整理して書く～

目的や意図に応じて、取材した事柄を整理して書くことに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、本問を活用し、必要な事柄を整理し簡単に書く指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

B② 協力を依頼する文章を書く（緑のカーテン作りへの協力をお願い）

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕B ウ

B②三 正答率 **33.2%** 「水やりに協力してくれる人をほ集めます」の「イ」に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く

授業アイデア例

係活動の協力をお願いするポスターを作ろう（2／2時、全2時間）

前時では、ポスターで協力をお願いをするという学習の見通しをもち、お願いしたいことを決めたり、ポスターの特徴を捉えたりしておきます。また、本時まで、必要な事柄を取材しておきます。

学習活動1 本時のめあてを確認する

- 本時では、書く事柄を整理して必要な事柄を選び、文章を組み立てて簡潔に書くことを確認する。

学習活動2 本問を活用し、書く事柄の整理の仕方と、簡単に書くことについて話し合う


中学生からもらったアドバイスの中から、ポスターに書くことを見付けて整理しよう。必要な事柄は何か。

アドバイスには、「水やりが大変だったこと」、「大変だった理由」、「理由を説明する事例」が書かれているね。

水やりの協力をお願いするためのポスターだから、水やりが大変な理由を伝える必要があるね。だから今回は「大変だった理由」を取り上げて、簡単に書こう。

水やりに協力してくれる人、大ぼ集！

～緑のカーテンですずしい夏を～



水やりは、毎朝、たくさんの植木ばちにやらなければならぬので、大変です。
みなさん！ぜひ、協力してください！！

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとて大変だったなあ。

まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれかけていたこともあったよ。

それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちに水をやる必要があるんだ。植木ばちの数ほどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。

水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ぎて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。

何かこまったことがあったらいつでも相談のるよ。

がんばって作ってね。

理由

事例

めあて

係活動の協力をお願いするポスターを作ろう

ポスターでお願いの内容を分かりやすく伝えるために、必要なことを選んでかんたんに書こう。

整理した内容を、ポスターに書くための短い文や文章にしてノートに書き、確かめてみるようにすることが大切です。

ポイント

学習活動3 係活動のグループで、文や文章を書き、ポスターにする

- 自分たちの係活動で、協力を依頼する理由を明確にして文や文章を書き、ポスターを作成する。

本授業アイデア例 活用のポイント！

- ポスターが完成した後に、学級全体で、互いのポスターを見ながら、工夫したところなどについて交流することも考えられます。
- 取材した事柄の中から、事実と感想、意見などを区別した上で、目的や意図に応じて、詳しく書く場合と、簡単に書く場合とを適切に判断することができるように指導することが大切です。具体的には、新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえ、内容や分量などを考えながら書くというような学習活動を工夫することが考えられます。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 国語」P.64～P.73, 「平成29年度 解説資料 小学校 国語」P.50～P.57

「興味のあることを調べて友達に伝えよう」

～目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話す～

目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、児童が興味・関心をもっている事柄について、調べたことをスピーチ形式で友達に伝えることについての指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

授業アイデア例

歴史上の人物について心に残ったことを友達に伝えよう (全7時間)

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

興味をもった歴史上の人物について調べ、スピーチを行う

- ① スピーチのモデルを聞いて感想を話し合い、自分が興味をもった歴史上の人物についてスピーチを行うという学習内容を知る。
- ② 今回のスピーチの目的、相手、時間、場を知り、学習計画を立て、自分がスピーチに取り上げる歴史上の人物を決める。

- スピーチのモデルから児童が気付いたスピーチのよさを、「スピーチの心得」としてまとめる。
- スピーチを行うためには、「調べる」、「伝えたいことを決める」、「発表原稿やメモを作る」、「練習をする」などの活動が必要であることを確認する。

第二次

- ③ 自分が選んだ人物について、社会の教科書や資料集などで調べたことを基に自分の考えを明確にし、スピーチの構成と内容を考える。
- ④ 自分の考えが伝わるように、③で考えた構成と内容を基にスピーチメモを作成する。
- ⑤ メモを基にスピーチの練習を行い、友達と助言し合う。

- 調べたことの中から、友達に伝えたいことを明確にし、スピーチの構成や内容を考えることができるようにする。
- 児童の実態に応じて、発表原稿を作成してから、それを基にスピーチメモを作成するなど、指導を工夫する。
- スピーチの話の構成や内容、話し方など、自分が助言をもらいたい観点を明確にしておくことを確認する。

第三次

- ⑥ 友達からの助言を基に、スピーチの構成や内容を見直し、必要に応じて練習を行う。
- ⑦ 歴史上の人物について心に残ったことを発表し合い、学習を振り返る。

- これまで学習でまとめてきた「スピーチの心得」を基に、自分の改善点に気付くことができるようにする。
- 自分のスピーチを振り返り、次にスピーチを行うときに生かしたいことを確認する。

第一次① / 7

スピーチのモデルを基に、気付いたことを「スピーチの心得」にまとめる



スピーチのモデルを見て、気付いたことはありますか。



大事なところは、ゆっくり、はっきりと話しています。



相手の反応を意識して、話し方を工夫しています。



具体例を挙げながら分かりやすく伝えていきます。



いろいろなことに気付きましたね。では、気付いたことを基に、「スピーチの心得」をまとめてみましょう。



「スピーチの心得」

○ 資料提示の仕方	○ 話し方	○ 話の構成や内容
--------------	----------	--------------

- ・ 気付いたこと
- ・ 大事なところは、ゆっくり、はっきり話している。
- ・ 伝えたい言葉は、声の調子を変えている。
- ・ はっきりと聞きやすい速さで話している。
- ・ だれについて話すかを最初に言っている。
- ・ 話のまとまりとまとまりの間をあけている。
- ・ 大事なところの前には間をあけている。
- ・ 聞き手を見て話している。
- ・ 聞き手に問いかけをしている。
- ・ 具体例を挙げて話している。
- ・ 資料を示しながら話している。

めあて

歴史上の人物について心に残ったことを友達に伝えよう
スピーチのモデルを見て、気付いたことを「スピーチの心得」にまとめよう。

スピーチを行う際、自分が伝えたいことを伝えるためにはどの「スピーチの心得」を使えばよいのかを児童が判断することができるようにします。そのために、「スピーチの心得」をノートやカードなどにまとめ、児童が必要に応じて参考にすることができるようにしておくことが大切です。

ポイント

B① スピーチの練習をする（「折り紙」の紹介）

〔第5学年及び第6学年〕A イ
〔第5学年及び第6学年〕B ウ

B①三 正答率 **48.6%** 折り紙のみりょくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く

第二次④ / 7

自分が選んだ人物について、心に残ったことが伝わるように、スピーチメモを作成する

〈スピーチメモの例〉

- 1 杉田玄白についての説明
江戸時代の医者である。
オランダ語の医学書を訳した。
- 2 心に残ったこと
辞書がない時代に、日本語に訳すことは大変だった。
オランダ語の一行を訳するのに一日かかることもあった。
- 3 学んだこと
難しくてもあきらめずに、ねばり強く、じっくり考えることが大切だと学んだ。
- 4 まとめ
ねばり強く、じっくり考えるようにしていきたい。

杉田玄白のねばり強さやじっくり考えるところがすごいと思ったから、そこを一番伝えたいな。

ポイント
目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、話の要点を短い言葉で順序立てて記述するように指導することが大切です。
スピーチメモを作成し、そのメモを活用して話すことで、話の構成を意識しながら相手の反応を見て話すことができるというよさを実感できるように指導することが大切です。

第二次⑤ / 7

スピーチの練習を行い、友達と助言し合う

スピーチメモを見ながら話す練習をする

これらから、みなさんに杉田玄白のことを紹介します。……

〈スピーチの例〉
これを見てください。これは、玄白が訳すのにも苦労したオランダ語です。今のように辞書がないので、オランダ語を日本語に訳すのは大変なことでした。もっている知識や、分かっていることを使って、じっくり考えるため、一行を訳すのに一日かかることもあったそうです。……

私は、杉田玄白から、難しくてもあきらめずに、ねばり強く、じっくり考え、最後までやりとげることが大切だと学びました。……

これからは、杉田玄白から学んだことを心に留め……

練習の様子を互いに見合いながら助言をする

動画を見ると、自分で思っているよりも早口で話していたと分かるね。

一番伝えたいところを、ゆっくり話したらどうかな。私もそれを意識してスピーチしてみよう。

玄白のねばり強くじっくり考えるところがすごいと思ったから、そこを伝えたいんだけど……

他に気を付けたいことはあるかな。

それなら、玄白のねばり強さが分かることをもう一つ付け足したらどうかな。そうしたら、もっと伝わると思うよ。

相手の反応を見て話すことをもっと意識したいな。

話し言葉には、発せられた途端に消えていくという特質や、聞き手の反応やその場の状況などの影響を強く受けながら理解されたり表現されたりするという特質があります。自分のスピーチの改善点を検討するために、話す様子を動画で撮影するなどして、児童が自分自身の話す様子を振り返ることができるようにすることが大切です。

ポイント

第三次⑦ / 7

発表会を行い、学習を振り返る

友達からの助言を基に具体例を一つ増やして話したら、分かりやすいねって感想をもらえて、うれしかったな。

動画を見てみたら、早口になっていることに気が付いたよ。一番伝えたいことをゆっくり話すように意識したら、聞きやすかったって言ってもらえたよ。

発表原稿があると、どうしても読んでしまっけれど、スピーチメモを作って、それを見て考えながら話すようにしたら、聞き手の反応を意識して話すことができたよ。

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 本事例では、第6学年の社会科における歴史の学習との関連を図り、自分が興味・関心をもった歴史上の人物を取り上げました。スピーチの話題として、自分の趣味やクラブ活動などを取り上げるなど、児童の実態や他教科等における学習を踏まえ、児童が伝えたいと思うような内容を設定することが大切です。
- 高学年における「C 読むこと」のウの指導事項と関連を図り、自分にとって必要な情報について、図書資料を用いて調べる活動に重点を置いて指導することも考えられます。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 国語」P.52～P.63, 「平成29年度 解説資料 小学校 国語」P.40～P.48

「物語を推薦しよう」

～叙述を基に推薦理由を明確にして、物語の魅力伝える～

物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、自分が選んだ物語の魅力を紹介することについての指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

授業アイデア例

心に響いた物語を推薦しよう (全7時間)

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

第二次

第三次

物語の魅力「すいせんカード」にまとめる

① 教師の提示した「すいせんカード」を基に、物語の魅力を見付ける視点を捉え、学習計画を立てる。

■ 今までに読んだ物語の魅力を想起したり、教師のモデルを参考にしたりするなどして、登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など物語の魅力を見付けるための視点を捉えることができるようにする。

②③ 「きつねの写真」の魅力について話し合い、推薦理由を明らかにする。
④ 「すいせんカード」を書く。

■ 「きつねの写真」の中で、一番心に響いた場面や叙述を選び、その理由を伝えることで、互いの考えを交流することができるようにする。
■ 互いの考えの共通点や相違点を記録し、「すいせんカード」に生かすことができるようにする。

⑤⑥ 自分が選んだ物語の魅力について考え、推薦理由を明らかにする。
⑦ 「すいせんカード」を書く。

■ 「きつねの写真」で学習したことを確認することで、自分が選んだ物語の推薦理由を考えることができるようにする。
■ 推薦理由について、悩んでいることなどを中心に、友達と交流し、自分が選んだ物語の推薦理由を明確にすることができるようにする。

関連する本を教室に常備し、児童がいつでも読むことができるように工夫することが大切です。また、児童の実態や付けたい力に適した本を、地域の図書館等と連携を図り、選書することが重要な教材研究となります。

ポイント

学習後は各自が選んだ本に「すいせんカード」を添えて、学校図書館等に展示することで、児童が、目的をもって読むことができるようにすることが大切です。

「すいせんカード」の例

きつねの写真

あまんきみこ 作

あらすじ

一番心に響いた場面や叙述

推薦の文章（推薦理由）

第一次①/7 物語の魅力を紹介するための学習計画を立てる

「すいせんカード」で物語の魅力を紹介するという目的をもって読むことができるように、単元の導入を工夫することが重要です。そのためには、次のような様々な工夫が考えられます。

これまでの学習活動を想起させる

これまでの学習経験から、言語活動や交流の意義を想起させ、本単元の学習への意欲や見通しをもつことができるようにします。



これまでの物語の学習で、楽しかったことや学んだことはどんなことですか。

「ごんぎつね」で、物語全体に広がっている登場人物の行動や会話に着目して読んだら、気持ちの変化がよく分かりました。今回も行動や会話に着目して魅力を見付けたいと思います。



友達と話し合うことで、紹介する理由がはっきりしました。場面と場面とを関係付けて考えることができたので、また友達の考えを聞きたいです。



教師がモデルを示す（本事例）

教師が心に響いた物語の魅力を紹介することで、児童に推薦するという言語活動に対する見通しをもてるようにします。また、単元に設定した言語活動を教師自身が行うことで、指導上の留意点が明確になります。



私がぜひ読んでほしいのは、「白いぼうし」です。このお話には不思議なおもしろさが味わえる文がたくさん散りばめられていて、それらがある一つの秘密につながっているのです。

物語のブックトークを行う

既習の物語や本単元で対象とする物語の読み聞かせを行ったり、あらすじや登場人物などを紹介したり、物語の不思議さやおもしろさに気付かせたりすることで、物語の魅力を紹介することへの興味・関心を高めることができるようにします。

児童自らが課題を設定したり、単元の学習計画を立てたりするためには、単元や単元時間の冒頭に、学習の見通しを立てたり、終末に学習したことを振り返ったりする活動を位置付け、それを繰り返していくことが大切です。

ポイント

B③ 物語を読んで、感想を伝え合う

(あまんきみこ「きつねの写真」)

〔第5学年及び第6学年〕C エ
〔第5学年及び第6学年〕B ウ

B③三 正答率 **43.9%** 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く

第二次②③/7

心に響いた場面や叙述とその理由について交流する

文章の中から、心に響いた場面や叙述を見付け、その理由を考える



Aさん

「あたりの木がいっせいにざざっと…」というところが不思議な感じがして、心に響いたよ。ここをこの物語の魅力として推薦したいんだけど、不思議なところはほかにもあるかもしれない。友達のを聞いてみよう。

グループで交流し、自分の考えを明確にする



Aさん

「きつねの写真」の不思議なところを推薦しようと思っているんだけど…。

どこから不思議だと思ったの。



Bさん



Aさん

「あたりの木がいっせいにざざっと…」というところから、木が葉をゆすってとび吉を呼ぶなんて不思議な感じがすると思ったんだ。ほかにもあるかな。

「まるでまっていたように…」というところも、林の中に戻っていったはずの松ぞうじいさんが急に現れたから不思議だと思ったよ。



Cさん

そうか、Aさんは情景を、Cさんは登場人物の行動を基に考えたんだね。不思議な感じがする表現は物語全体に広がっているんだね。



Bさん



Aさん

みんなの考えを聞いて、不思議なところが魅力だという推薦の理由がはっきりしてきたよ。もう一度この物語を読んで確かめてみるね。

学習を振り返る



Aさん

交流を通して、すいせん理由がよりはっきりしてきた。Cさんから意見をもらうことで、登場人物の行動からも不思議な感じがするということが分かった。すいせん理由をもう一度考え直してすいせんの文章を書きたいと思う。

心に響いた場面や叙述とその理由を明確にするために…

- 心に響く叙述を見付ける
 - ・ 登場人物の行動、会話、心情、相互関係
 - ・ 場面についての描写 など
- 複数の場面の叙述を相互に関係付ける
- 自分の知識や経験、読書体験などと結び付ける など

交流を通して、自分の考えを明確にするために…

- 「自分の考えをより確かなものにしたい」、「ほかにもあるかもしれないから聞いてみたい」など、何のために交流するのかを児童が実感できるようにします。
- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを、児童が自覚することができるようにします。
- 自分の考えや交流したことをノートにメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、推薦の文章を書く際に活用できるようにします。
- 第三次で、自分が選んだ物語の魅力について交流する際は、次のような交流が考えられます。
 - ・ 同じ物語を選んだ児童同士で交流することで、同じ物語でもいろいろな考えや、感じ方があることに気付くことができるようにする。
 - ・ 違う物語を選んだ児童同士で交流することで、自分の考えた魅力が物語の魅力の視点（登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など）に合っているか吟味することができるようにする。また、自分が選んだ物語と他の物語とを比較しながら考えをまとめることができるようにする。

視点を明確にして、学習を振り返るために…

- 学習して分かったことや次に生かしたいことなど、何について振り返るのかを明確にすることが大切です。
- 交流して得たことや友達の見解を聞いて考えたことなど、交流について振り返ることも大切です。

自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になるということを児童が実感できるようにすることが大切です。

ポイント

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 交流を通して自分の考えを広げたり深めたりするためには、日頃から、互いの思いや考えを尊重しながら共感的に受け止めようとする雰囲気をつくるのが大切です。
- 複数の叙述を関係付けながら、それらを基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、低学年の段階では、登場人物の行動など、中学年の段階では、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などに着目し、叙述を基に想像して読むことができるように指導することが大切です。

「きまりを言葉や式で表現しよう」

～見いだした数量の関係を一般化する～

B①の結果を分析すると、問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉と数を用いて記述することに課題が見られました。算数の学習では、帰納的に考えて数量の関係を見いだしたり、見いだした関係が成り立つ理由を説明したり、いつでも成り立つかどうかを考えたりすることで、一般化して表現することができるようにすることが大切です。本授業アイデア例では、示された条件から数量の関係を見いだしたり、見いだした数量の関係を図を用いて考察したりすることで、二つの数量の関係を一般化して捉えて表現することができるようにすることをねらいとした授業を紹介します。

授業アイデア例

① 2けたのひき算の答えに着目し、分類整理することで、9の倍数になっていることに気付く。



教師

1から9までの数が書かれたカードが1枚ずつあります。
この中から2枚のカードを選んで、次のような、

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

カードを使った2けたのひき算の計算をしましょう。

【カードを使った2けたのひき算】

選んだ2枚のカードを並べて、2けたの整数を2つつくり、大きい数から小さい数をひきます。
例えば、①と⑤を選んだ場合、①⑤と並べると15がつくれます。⑤①と並べると51がつくれます。
【2けたのひき算の式】 $51 - 15$ 【2けたのひき算の答え】36

いろいろな式を立ててみると、答えが同じ式がいくつかあります。何かきまりがあるのかな。



2けたのひき算の答えが同じ式をまとめる。

$$21 - 12 = 9 \quad 31 - 13 = 18 \quad 41 - 14 = 27 \quad 51 - 15 = 36$$

$$71 - 17 = 54$$

$$32 - 23 = 9 \quad 42 - 24 = 18 \quad 52 - 25 = 27 \quad 62 - 26 = 36$$

$$82 - 28 = 54$$

$$53 - 35 = 18$$

$$93 - 39 = 54$$

答えが同じ式どうして整理してみました。
2けたのひき算の答えは9の倍数になっています。



そのほかにも、「 $72 - 27 = 45$ 」, 「 $81 - 18 = 63$ 」, 「 $91 - 19 = 72$ 」となるように、2けたのひき算の答えは9の倍数になっています。



ポイント

児童自らが情報を分類整理して共通点を見だし、見いだしたことがほかの場合についても当てはまるかどうかを調べようとする態度を育てることが大切です。

② 見いだした数量の関係を言葉や式に表し、その関係が成り立つ理由を、図を用いて考える。



2けたのひき算の答えが同じ式どうしてを見て、気付いたことはありますか。

2けたのひき算の答えが18のときは、カードの差が2です。



2けたのひき算の答えが54のとき、カードの差はすべて6になっています。



式に表すと $2 \times 9 = 18$ です。



$9 \times 6 = 54$ です。



カードの差と2けたのひき算の答えには、きまりがありそうです。



カードの差を使って、2けたのひき算の答えを簡単に求めることができるきまりを説明しましょう。

課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における領域・内容

B① 数量の関係の考察と一般化（数字カード）

B①(1) 正答率 **76.1%** カードの差が4の場合、2けたのひき算の式と答えを書く

B①(2) 正答率 **81.9%** 示された考えを基に、54-45の場合で残る部分を図に表す

B①(3) 正答率 **38.8%** 2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く

[第2学年] A 数と計算(2)ア
[第4学年] D 数量関係(2)イウ
[第5学年] A 数と計算(1)イ
[第5学年] D 数量関係(2)

カードの差が4のとき、4と9をかけると、2けたのひき算の答えは36になります。



カードの差と9をかけると、2けたのひき算の答えになります。

「カードの差」×9＝「2けたのひき算の答え」です。



なぜ、カードの差と9をかけると、2けたのひき算の答えになるのですか。

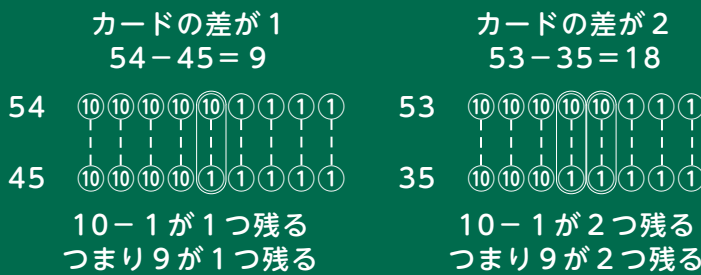
「なぜ、…」と疑問をもったときに、今までどのように考えてきましたか。



図や式などを使って考えたことがあります。



2けたの整数を⑩と①で表した図を使って考えてみましょう。



カードの差が3, 4, 5などの場合も、カードの差の数の分だけ、10-1が残ります。つまり、カードの差の数の分だけ、9が残るからです。



カードの差と9をかけると、2けたのひき算の答えになることがわかりました。



ポイント

見いだした数量の関係を言葉や式を用いて一般化して捉え、表現できるようにすることが大切です。また、見いだした数量の関係を図を用いて考察しようとする態度を育てることも大切です。

③ 学習の過程を振り返る。



発見したきまりを表現するまでに、どのように調べたり、どのように考えたりすることがよかったですか。



学習の結果のみではなく、学習の過程を振り返ることが大切です。

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 本設問における「ひき算」という条件を、「たし算」に変えて考察する活動も考えられます。

条件を変えて数量の関係を考察し、一般化する活動の例

【選んだ2枚のカードを並べて、2けたの整数を2つ作り、大きい数と小さい数をたします。】

(例) $21 + 12 = 33$, $52 + 25 = 77$, $91 + 19 = 110$

〈見いだしたきまり〉カードの和と11をかけると、2けたのたし算の答えになります。

※この教材は、中学校の「文字式を活用した説明」の学習につながります。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 算数」P.62～P.69, 「平成29年度 解説資料 小学校 算数」P.48～P.56

「よりわかりやすい表に作りかえよう」

～目的をもって情報を収集・整理し的確に特徴を捉える～

A⑨(1)(2)及びB④(1)の結果を分析すると、二次元表の意味の理解とその活用に課題が見られました。日常生活の問題の解決のために、必要な情報を収集し、表やグラフに表現することで、事象の特徴を捉え、適切な判断をすることが大切です。本授業アイデア例では、目的をもって情報を収集・整理し、整理した表を二次元表に表現し直す活動の過程で、二次元表の理解を深めるとともに、二次元表のよさに気付くことができるようにすることをねらいとした授業を紹介します。

授業アイデア例

① 調べた結果を分類整理する。

目的

ひろしさんたちは、かぜの予防のために、手洗いとうがいを呼びかけることにしました。



学級25人全員が、休み時間の後に、手洗いとうがいをしたかどうかについて調べ、表にまとめました。

手洗い調べの結果と、うがい調べの結果から気付いたこと

手洗いをした人数が20人、うがいをした人数が18人います。だから、手洗いをして、うがいもした人数は、18人なのですね。



本当にそうでしょうか。うがいをした18人の中には、手洗いをしていない人もいます。



教師

もう少し詳しく調べてみる必要がありそうですね。

アンケートをとって調べてみようと思います。



手洗い調べの結果

手洗い	○	20人
	×	5人

うがい調べの結果

うがい	○	18人
	×	7人

② 新たに情報を収集して調べ直し、観点を決めて分類整理する。

手洗い・うがい調べの結果(人)

手洗い	うがい	人数
○	○	15
×	○	3
○	×	5
×	×	2
合計		25

手 ○	手 ×
15人	5人
手 ×	手 ×
3人	2人

アンケートをとった結果は、4つに分けることができたのですね。



手洗いをして、うがいもした人数は、18人ではなく15人だったのですね。



うがいをした18人の中で、手洗いをしなかった人数は、3人でした。



18という数は、「手洗い・うがい調べの結果の表」には書いてありませんね。



18という数は、「うがい調べの結果の表」に書いてあります。



「手洗い調べの結果の表とうがい調べの結果の表」と「手洗い・うがい調べの結果の表」を合わせると、よりわかりやすい表にまとめ直すことができます。



ポイント

児童自らが目的に応じて改めて情報を収集し、表に整理し直す活動を設定することが大切です。その上で、表からわかることを読み取る活動を設定することが大切です。

課題の見られた問題の概要と結果

A ⑨ 資料の分類整理

B ④ 目的に応じた資料の整理と表現

(ハンカチ・ティッシュペーパー調べ)

学習指導要領における領域・内容

[第4学年] D 数量関係(4)ア

A ⑨(1) 正答率 **88.2%** 出席番号1番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ

A ⑨(2) 正答率 **63.1%** 二次元表の合計欄に入る数を書く

B ④(1) 正答率 **40.2%** 示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ

③ 二次元表に整理し直す。

		うがい		合計
		○	×	
手洗い	○	ア	イ	ウ
	×	エ	オ	カ
合計		キ	ク	ケ

手洗いをして、うがいをした人数は、15人で、この表の**ア**に当てはまります。それでは、うがいはしたけれど、手洗いをしなかった人数の3人は、この表のどこに当てはまりますか。



うがいはしたけれど、手洗いをしなかった人数の3人は、この表の**エ**に当てはまります。



それでは、表の**キ**に当てはまる数は、表の**ア**と**エ**に当てはまる数の合計の数となるのですね。



表の**キ**に当てはまる数は、 $15 + 3 = 18$ で、18と求めることができます。



それでは、表の**カ**に当てはまる数は、表の**エ**と**オ**に当てはまる数の合計の数となるので、 $3 + 2 = 5$ で、5と求めることができます。



表の**イ**、**ウ**、**ク**、**ケ**に当てはまる数も求めてみましょう。



表の**ケ**に当てはまる数は、表の**ウ**、**カ**、**キ**、**ク**に当てはまる数をたして50と考えてもよいのでしょうか。



アンケートをとった人数は、25人なので、表の**ケ**に当てはまる数は、50ではなく、25だと思います。



そうですね。25は表の**ウ**と**カ**に当てはまる数の合計の数であり、表の**キ**と**ク**に当てはまる数の合計の数でもあります。また、表の**ア**、**イ**、**エ**、**オ**に当てはまる数の合計の数でもあります。



④ 調べた結果について振り返り、活用する。

調べた結果の活用

手洗いはしたけれど、うがいをしていなかった人数が思ったよりも多かったので、うがいを中心に呼びかけたいと思います。



算数で学習したことが役に立ちましたね。



呼びかけた後も同じように調べて表にまとめ、かぜの予防のために活用したいと思います。



二次元表に分類整理することで、今まで見えていなかった情報が見えるようになり、情報をより分析的に考察することができることを実感的に理解できるようにすることが大切です。

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 日常生活の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決することができるよう単元を構成することが考えられます。(例)「ハンカチ・ティッシュペーパー調べ」、「けが調べ」など

「図に表すことで、100%や114%を捉えよう」

～量の大きさと割合の違いを明確にし、基準量・比較量・割合の関係を捉える～

B⑤の結果を分析すると、示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断すること、また、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を記述することに課題が見られました。算数の学習では、日常生活の事象を、算数で学習した内容を基に解釈したり、児童にとって身近なものに置き換えて考察したりすることが大切です。本授業アイデア例では、基準量・比較量・割合の関係を図を用いて的確に捉えたり、日常生活の事象を身近なものに置き換えて判断し、その判断の理由を数学的に表現したりすることができるようにすることをねらいとした授業を紹介します。

授業アイデア例

月を円と見て、「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

① 日常生活の事象を数学的に解釈し、14%長いことを考えるために、基準量が100%であることを捉える。



教師

もとにした「最小の満月の直径」をテープAとします。このとき、100%はア、イ、ウのどこになりますか。

もとにする大きさは1とするので、イが1となります。

1を百分率で表すと100%です。だから、イが100%になります。



ポイント 基準量を1（百分率の場合は100）と捉えることができるようにすることが大切です。

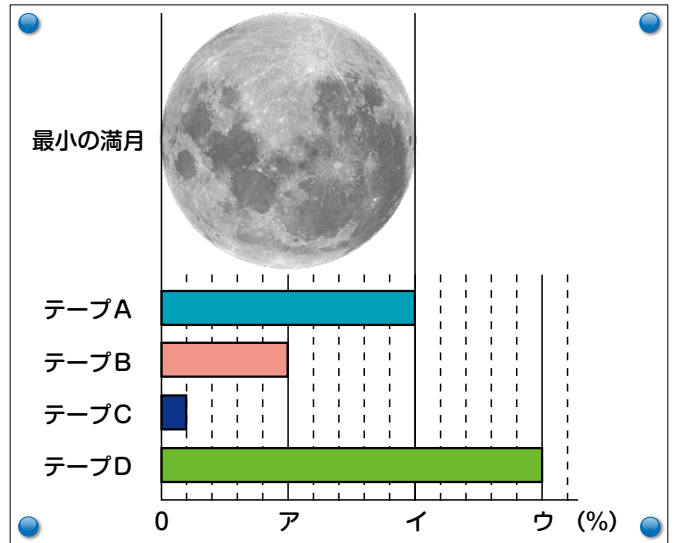


テープB、テープC、テープDの割合を、百分率と小数で表してみましょう。

テープBは50%で、0.5になります。

テープCは10%で、0.1になります。

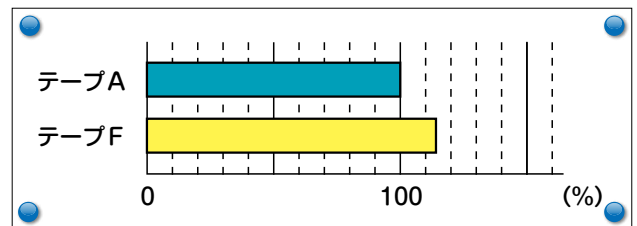
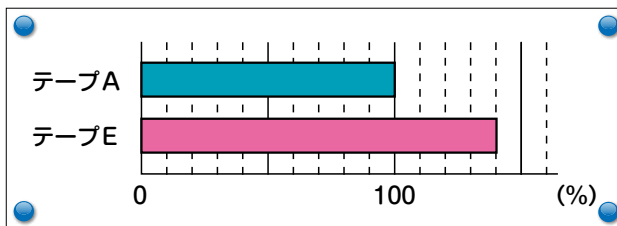
テープDは150%で、1.5になります。



② 基準量の「14%長い」という意味を考える。



テープAをもとにしたとき、14%長いのは、テープEとテープFのどちらでしょうか。



テープEは10%の目盛り14個分の長さだから140%です。テープEは40%長くなっているのだから違います。

1目盛りは10%なので、14%は1目盛り半ぐらいです。テープAより1目盛り半ぐらい長いテープFが正しいと思います。

14%長くなっているのだから、テープFは114%になります。



ポイント 「14%長い」ことを表している図として、正しい図と誤っている図を提示して比較・考察する場を設定し、基準量、比較量、割合の関係を的確に捉えることができるようにすることが大切です。

課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における領域・内容

B ⑤ 日常生活の事象の数学的な解釈と判断の根拠の説明 (見かけの月の大きさ)

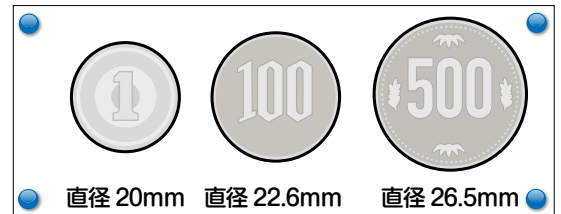
[第3学年] C 図 形(1)ウ
[第5学年] D 数量関係(3)

- B ⑤(1) 正答率 **65.2%** 「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ
- B ⑤(2) 正答率 **13.5%** 与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだだけを書く

③ 身近なものに置き換えたときの、基準量、比較量、割合の関係を捉え、判断の理由を説明する。



「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いのかを考えてみましょう。
テープAの長さを1円玉の直径とします。



テープFは、テープAの114%なので1.14倍ですね。



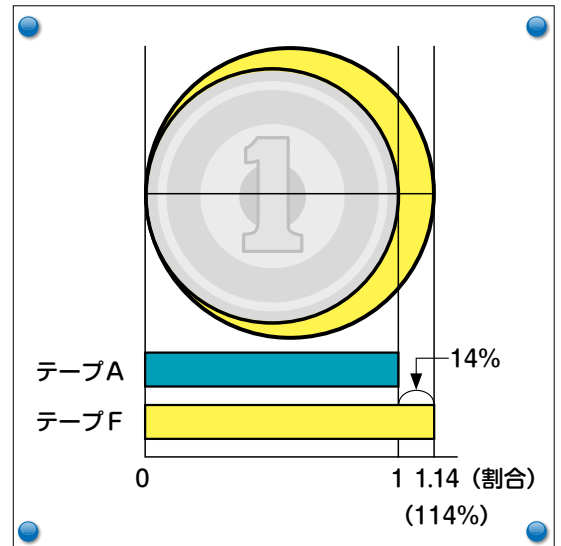
1円玉の直径の1.14倍が、テープFの長さです。
テープFの長さが「最大の満月の直径」に当たります。



1円玉の直径は20mmです。
20mmの1.14倍の長さは、 $20 \times 1.14 = 22.8$ なので、「最大の満月の直径」に当たる長さは、22.8mmです。
だから、100円玉のほうが近いです。



100円玉のほうが近いと考えたわけを、よりくわしく説明する必要はありませんか。



それぞれの硬貨の直径と、「最大の満月の直径」に当たる長さとの差が、どのくらいになるのかを説明する必要があります。



「最大の満月の直径」に当たる長さは22.8mmとわかったので、それぞれの硬貨の直径との差は、 $22.8 - 22.6 = 0.2$ 、 $26.5 - 22.8 = 3.7$ です。だから、差が小さい100円玉の直径のほうが近いです。



基準量、比較量、割合の関係を基に判断した理由を説明する際には、判断の根拠を、具体的な数量を示しながら説明することが大切です。

④ ほかの方法で問題を解決する。



1円玉の直径をもとにしたときの、それぞれの硬貨の直径の割合を求め、求めた割合と1.14倍との違いを比べることで、どちらの硬貨の直径に近いかを考えることもできます。

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈する際、児童の身近にあるものに置き換えて考察することが考えられます。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 算数」P.91～P.101, 「平成29年度 解説資料 小学校 算数」P.78～P.87
出典▶月の画像は、国立天文台ウェブページのデータを基に作成したものである。

授業アイデア例 Q&A

Q 授業アイデア例は、
どのようなときに
活用できるのですか？

A ●日々の授業や教材研究
●各学校での研修会や研究授業
●各教育委員会での研修会の資料
など、課題の解決に向けた様々な場面で御活用いただけます。

この授業アイデア例が、先生方それぞれの「アイデア」の広がりにつながっていくことを期待しています。

Q 授業アイデア例は、
小6や中3の担当が
参考にするものですか？

A 全ての先生が活用できるものを目指して作成しています。

本調査は小5・中2までの内容を出題しており、本調査で見られた課題は、小6・中3だけではなく、学校全体、校種を通じた系統的・継続的な指導によって改善を図っていくことが大切です。

また、国語や算数・数学の「アイデア」を他の教科等で活用することも考えられます。

Q 授業アイデア例に示してある
TYPE I・II・IIIとは何ですか？

A 本授業アイデア例では、調査結果から明らかになった課題の解決に向けた観点として次の3つのタイプを設けており、様々な方向から課題の解決に取り組めるようにしています。

児童生徒のつまずきの状況を把握し、その解決を図りたいときは

TYPE
I

短時間で知識・技能の定着を図りたいときは

TYPE
II

数時間にわたる学習過程の中で、知識・技能の習得と活用を図りたいときは

TYPE
III

詳しくは、授業アイデア例の見方 (P.1～P.2) を御覧ください。

Q 課題を把握して、授業の
改善を図りたいのですが、
授業アイデア例のほかにも
参考になるものがありますか？

A 授業アイデア例は、解説資料・報告書と併せて御活用いただくと効果的です。各アイデア例に「参照▶」として該当ページを示していますので、解説資料や報告書も御覧ください。



Q 過去の授業アイデア例
や解説資料・報告書はどこ
で見ることができますか？

A 国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>